

PART5

自主事業・共催事業の
紹介とあゆみ



〈自主事業・共催事業について〉

多摩交流センターは、「TAMA らいふ 21」の活動によって形成された市民ネットワーク活動の推進と広域的な市民交流を図るため、様々な事業を行ってきた。

ここでは、当センターが他の団体（NPO 法人や公益財団法人等）と共同して実施している4つの事業と、その他当センター独自に行なった講演会等の取組みについて述べる。

1.TAMA 市民塾

① TAMA 市民塾の設立経緯

多摩交流センターは「TAMA らいふ 21」の成果を承継するという役割を果たす一方、市民のネットワーク活動の一層の発展と活性化のために新しいユニークな事業を立ち上げることが、開設直後の当センターの一つの課題であった。

様々な検討を進める中で、当時の新しい試みであった市民の手による生涯学習塾の運営の先例として、静岡県清水市（当時）の「清見潟大学塾」（昭和 60 年開講）の存在が明らかとなった。調査の結果、当センターとしてもこの事業に取り組むこととなり、市民が主体の事業としてスタートさせるため、開設に向けて企画スタッフを公募して準備が進められた。平成 6 年 8 月、この企画スタッフと当センターの職員が合同で「清見潟大学塾」の現地調査に赴き、秋からは企画スタッフ会議が開催されるようになった。この会議は翌年の 5 月まで計 10 回にわたり、その後の準備は運営スタッフ会議に引き継がれ、10 月の開講まで計 9 回の会議が開催されている。

こうして「TAMA 市民塾」という名称をはじめ、新しい仕組みが決まり、新しい生涯学習を实践する事業がスタートした。

TAMA 市民塾は、公民協働という形をとって発足している。会場提供、広報事務等の支援を当センターが行い、塾の運営はボランティアの理事が行うという役割分担である。この役割分担は、清見潟大学塾に倣ったものであり、市民が主体になって塾の運営を行うことにより、講座の企画、受講生の募集が市民感覚で幅広く自由にかつ柔軟に運営できるという利点を持っている。

開設以来、TAMA 市民塾は、ボランティアによる塾の運営と当センターが担う会場の提供や広報事務の支援により継続されている。この形態が相まってはじめてニーズに合った講座が開講できるため、この公民協働の形態は今後も継続していくことが必要である。

また、ボランティアによる運営スタッフは、塾長を中心とする理事会により運営され、理事、講師、塾生の協調性を重視するとともに柔軟でより良いスタイルを模索し、時代のニーズにあった講座を開講してきたことが TAMA 市民塾の継続に結びついている。

2 TAMA 市民塾の運営と役割

TAMA 市民塾は、多摩地域（30 市町村）の全ての市民を対象とする新しい生涯学習（楽習）の場を提供している。一般公募による講師と理事（ボランティア市民スタッフ）、そして塾生の協働により企画・運営を実践している。

「講座はコミュニティ」を基本理念とし、講座の形式も参加型・対話型・実践型とし、塾生・講師・スタッフの相互理解と交流を深めることを目指している。塾生だった方がのちに講師をつとめたり、講師が同時に塾生として他の講座を受講したり自由な交流が行われている。

TAMA 市民塾は、平成 7 年開設から平成 26 年までに 570 件を上回る講座を開講し、のべ 13,500 名を超える塾生の方が講座を修了している。この TAMA 市民塾の講座により、学ぶこと、教えることの楽しさや大切さを多くの方に体験していただく、多摩地域のひとづくり、まちづくりにつながる生涯学習の場の提供を担っている。

【TAMA 市民塾】

■運営スタッフ（市民塾理事）

運営スタッフはボランティアで、市民講師、塾生経験者で構成されている。

■塾生募集

講座は年 2 回、10 月と 4 月に開講。多摩地域に在住、在勤、在学する方を対象に、当調査会機関紙や市町村広報紙及び TAMA 市民塾発行の「塾生募集案内」等により募集している。

■受講料

TAMA 市民塾は営利を目的とした事業ではなく、低廉な受講料としている。①全 6 回の講座 3,000 円 ②全 12 回の講座 6,000 円 ③全 20 回の講座 10,000 円

■講師

多摩地域に在住、在勤、在学している方を対象に公募により選考

■日曜講座・広報

①年 4 回の日曜講座（無料）を開講

②TAMA 市民塾の講座内容や講師、塾生からの声などを発信する広報紙「たまずさ」を発行

■講座開催状況

78 ページ「TAMA 市民塾講座開催状況」を参照



T A M A 市民塾講座開催状況

年度	開講期	講座数	応募者数	受講者数
平成7年度	10月期	15	429	276
平成8年度	4月期	15	683	385
	10月期	12	651	239
平成9年度	4月期	16	917	391
	10月期	15	538	372
平成10年度	4月期	13	620	296
	10月期	16	654	332
平成11年度	4月期	14	661	471
	10月期	14	830	361
平成12年度	4月期	15	1,061	372
	10月期	15	678	298
平成13年度	4月期	15	1,157	419
	10月期	16	776	333
平成14年度	4月期	17	835	348
	10月期	16	767	351
平成15年度	4月期	15	702	360
	10月期	17	887	515
平成16年度	4月期	17	999	436
	10月期	16	718	384
平成17年度	4月期	14	1,082	345
	10月期	18	1,025	407
平成18年度	4月期	16	1,065	347
	10月期	17	994	405
平成19年度	4月期	15	898	312
	10月期	19	1,065	403
平成20年度	4月期	17	842	338
	10月期	17	795	376
平成21年度	4月期	16	770	326
	10月期	17	996	430
平成22年度	4月期	16	1,002	403
	10月期	18	905	414
平成23年度	3月期	5	220	110
	10月期	17	801	413
平成24年度	3月期	5	165	114
	10月期	18	878	438
平成25年度	3月期	3	184	86
	10月期	16	700	395
平成26年度	4月期	6	333	160
	10月期	16	684	365
計		575	29,967	13,526

TAMA市民塾 歴代理事一覧

準備企画スタッフ（平成6年12月）	初代理事（平成7年10月）			
小澤 松美	塾長	高原 北雄	理事	小澤 松美
貴志 淳子	副塾長	安部 貞司	〃	塚本 亮
塚本 亮	〃	森山レイ子	〃	佐藤奈穂美
土屋 秀雄	事務局長	土屋 秀雄	〃	貴志 淳子
細谷 祥子	監査	熊谷さとし	〃	細谷 祥子
松原 明生	〃	澤田 欣三	〃	松原 明生
宮地 裕			〃	宮地 裕

その後、理事になられた方

堀江 繁	遠藤 武雄	市川 明	木村 京司
岡野 喜樹	樽松 慶子	金子 戊	守山 典子
羽生 謙五	浅原 勇吉	小林香寿美	木村 ミチコ
黒沢 淑子	小笠原道雄	植田千香子	手島 正夫
萩原 美歌	原 智子	長谷川輝一郎	横田 至明
大西 淑弘	友田 照子	荒木 順子	南場 弘収
寺尾富次郎	遠藤 秀美	杉本 裕三	葛山 由博
岡本佐知子	藤田 真理	竹松由美子	松尾 敏子
島倉 繁夫	野口 道夫	飯田 弘	川村 正徳
岡崎 志織	武井 聖子	谷 正志	川原 すみ枝
持丸 暁	伊藤 英輔	井上恵美子	茂木 優
井出 俊弘	青木 竹生	原田 環爾	

現在の理事

塾長	横田 至明	理事	荒木 順子
副塾長	原田 環爾	〃	南場 弘収
会計	木村 京司	〃	松尾 敏子
〃	竹松 由美子	〃	川村 正徳
監事	川原 すみ枝	〃	茂木 優

(敬称略)



〈寄稿〉TAMA市民塾と多摩交流センター

■ TAMA市民塾 塾長 横田至明

多摩交流センターが開設 20 周年を迎えました。TAMA 市民塾としても意義深いものを感じます。現に、生涯学習活動の推進という面において、TAMA 市民塾と多摩交流センターは表裏一体で活動しており、子と親のような関係を保ち続けています。



平成 26 年度 TAMA 市民塾 理事会

そもそも多摩交流センターは 20 年前、(財) 東京市町村自治調査会内に設置されま

した。そのとき事業の柱の 1 つとして、広域多摩における生涯学習の場を模索し、各方面に取材を行っています。これにより「市民による運営、公の支援」という方向が定まったのです。

その後、公募された市民スタッフにより、運営体制、講師公募、講座選定、塾生募集等が詰められ、翌年(平成 7 年 10 月) TAMA 市民塾として講座をスタートさせました。

ここで注目したいのは、当然のことながら、広域多摩という奥行きの高さ、用意された会場のスペースの 2 点です。これが、新しいコミュニティを生み出すスケールにぴったりと合うものだったからです。このことは暫く措くとして、まずは、その後の社会状況の変化について見ておきたいと思います。

日本では、いま団塊の世代がリタイアし、高齢化に拍車がかかっています。多摩地区における 65 歳以上の全人口に占める割合は 21.15% / 平成 24 年で、年々増え続けています。

一方、世帯当たりの人員は減り続け、多摩地区で 2.28 人(東京都で 2.06 人) / 平成 22 年。

また、全世帯に占める単独世帯の割合は、多摩地区で 35.9%(東京都で 42.5%) / 平成 22 年で、年々増え続けています。

つまり高齢者が増え続ける中、核家族による家族の分化がいつそう進み、同居家族数が小さくなり、全世帯に占める未婚、離婚、死別等による独り身の世帯が多摩地区では 1/3 以上、東京都で 4 割以上を占めてきています。同居家族をミニマム・コミュニティ(最小共同体)と考えると、単独世帯の割合を表わす数値は、ミニマム・コミュニティの破たん率を表わすことにもなります。しかも、この数値の年々増は、即ミニマム・コミュニティ喪失者の年々増を意味することから、問題は大きいといわねばなりません。一人では共同体をなさないばかりか、話し相手、相談相手にもこと欠く人の増大が危惧されるからです。

さて、分化して別世帯を構成した家族は、元の家族との関係が日々疎くなり、お互いにコミュニケーションも取りにくくなる。そこを突いたオレオレ詐欺が横行している。この詐欺は家族崩壊、ミニマム・コミュニティの破たんに付け込んだ犯罪とみることが出来る。密なコミュニケーションをとり合うことで防止するしか方法はないと思われます。

話が少しそれましたが、要は、何もしなければ、自分の周りにおけるコミュニティ(共同体)は



自分とは関わりなく存在し消滅していくものです。そうと分かれば、自分から既存のものに加わり改革するもよし、新しく作っていくもよしと考えを固めるべきでしょう。

ところで、原始状態のコミュニティ（むら）は、防衛、道普請、治山治水、水利等々、むらに関わるあらゆることをむらの力で推進してきました。そのため、労働を伴う協働体としての性格が色濃く出ていたと思われます。いまではその大部分を国や自治体に移し、協働する部分は、祭りとか特別な場合に限られてきたように思います。

では、いま共同体（community）に期待されることとは、いったい何でしょうか。

- ・「共有できるものやこと（common）がある」こと。
- ・「メンバー間で必要に応じコミュニケーション（communication）がとれる」こと。
- ・「適度な共同作業（collaboration）が存在する」こと。
- ・「ともに飲食する（symposium）機会がある」こと。

私は、以上を考えておりますが、じつはこれらは「仲間づくり」の基本でもあるのです。余談ですが、同じ釜の飯を食う仲間のことを、英語では、パンと一緒に食うともだち（companion）といっています。

ここで、同居する家族もなく、共同すべき場をもたない、相談すべき仲間もないという状況を打破したいと考える向きに、また、高学歴社会に相応しい仲間づくり、コミュニティづくりのできることを求めている向きに、知縁コミュニティを標榜するTAMA市民塾の講座を紹介しておきたいと思います。

TAMA市民塾の講座は、定員30人前後で、多摩各地から集まった受講者に、講師が、できあいのものを一方的に講ずる講座ではなく、みんなで作り上げていくというものです。資料印刷を分担し、机の配置も講座に合うようみんなに変え、終れば元に戻す。講座は即コミュニティになっています。6回、12回、20回と、それぞれの講座が進行するうち、受講者同士がお互いに名を覚え、同じ講座を共有する仲間となっていく。そう、講座には「common」があり、「communication」があり、「collaboration」があり、ときにはお茶や昼飯の「symposium」もある。そうしたことで、終了後は、その中の何人かが音頭をとり、自主グループを結成し、独立して講座の継続をはかるものが多い。市民塾では、これを知縁コミュニティと呼んでいます。今こうした自主グループは300に及ぶと推定されます。もちろん、そのままただ続けていけばなら「ついコミュニティ」と化し、消滅を免れません。新陳代謝を考えなければならない所以です。

わたしも長年2つの自主グループの講師をしています。いずれも当初のメンバーはごく少数になり、新しいメンバーが増えて当初の人数を凌駕しています。新人が加わると刺激を受け、従来のメンバーも活性化するようです。まさに新陳代謝だなと思います。このようにして、知縁コミュニティは更新されていくのです。

なお、多摩交流センターの会場を利用しようとする自主グループは、100程度あり、同所に登録をしています。登録せずに他で活動続ける団体は200ほどと推定されています。

こうして、TAMA市民塾は知縁コミュニティを生み出し続け、多摩交流センターはこれを見守り、支援し続けているのです。

2. NPO法人全国生涯学習ネットワーク

① NPO法人全国生涯学習ネットワークの概要

「NPO法人全国生涯学習ネットワーク」は、生涯学習をめざす全国の団体が、互いに協調して各団体が行う活動・事業の連携・ネットワーク化を図り、地域住民の生涯学習意欲の高揚に寄与することを目的として平成12年11月に発足した団体である。

多摩交流センターと共催で、フォーラム（シンポジウム）の開催やインターネット放送「多摩発・遠隔生涯学習講座」の開講・発信等を実施している。

【全国生涯学習ネットワーク】

■法人区分 特定非営利活動法人

■主な事業

- ①講師の紹介・情報の交換
- ②生涯学習フォーラム・講演会の開催
- ③インターネット放送「多摩発・遠隔生涯学習講座」の実施
- ④情報紙の発行

■所在地 〒184-0004 東京都小金井市本町 3-8-9-312

②多摩発・遠隔生涯学習講座のあゆみ

平成16年1月、「NPO法人全国生涯学習ネットワーク」及び「中央コリドー高速通信実験プロジェクト推進協議会（CCC21）」は、「NPO法人東京雑学大学」と共同して、生涯学習セミナーの開催及びその映像のインターネットによるライブ中継、並びにVOD（ビデオ・オン・デマンド）配信の社会実験を行ってきた。

平成19年度からは、新宿から当センターへ講演会場を移転したことを機に、多摩地域から多彩な情報を発信したいとの長年の思いをこめて「多摩発・遠隔生涯学習講座」と名づけて実施している。また、平成21年度からは「NPO法人全国生涯学習ネットワーク」と「東京市町村自治調査会」が連携し講座開催及びライブ中継を実施している。

③多摩発・遠隔生涯学習講座の紹介

この講座は多摩地域からインターネットを通じて、毎月第2木曜日に日本全国・全世界に多彩な情報を発信している。一人ひとりが自由に、学ぶ喜びや豊かな心を育むため、各分野で活躍している先生方にボランティアで講演をお願いし、その内容をインターネットによりLIVE中継をしている。視聴者は自宅で無料受講することができる。これまで130回の講座を開催している。また、その講座はVOD（ビデオ・オン・デマンド）視聴できる。

【多摩発・遠隔生涯学習講座】

■講演及び視聴

毎月、第2木曜日午後2時30分から

講演会場は府中市の「多摩交流センター」、遠隔視聴会場は武蔵野市の「西久保コミュニティセンター」か「かたらいの道市民スペース」

■インターネット配信

講演はビデオカメラで撮影した映像をエンコーダーで処理し、インターネット網を経由し放送している。家庭や職場で、リアルタイムに視聴できる。

また、過去の講座の映像は、VOD（ビデオ・オン・デマンド）配信サーバーから常時インターネット配信しているので、自宅や職場でいつでも、好きな時間に視聴することができる。

■ホームページアドレス

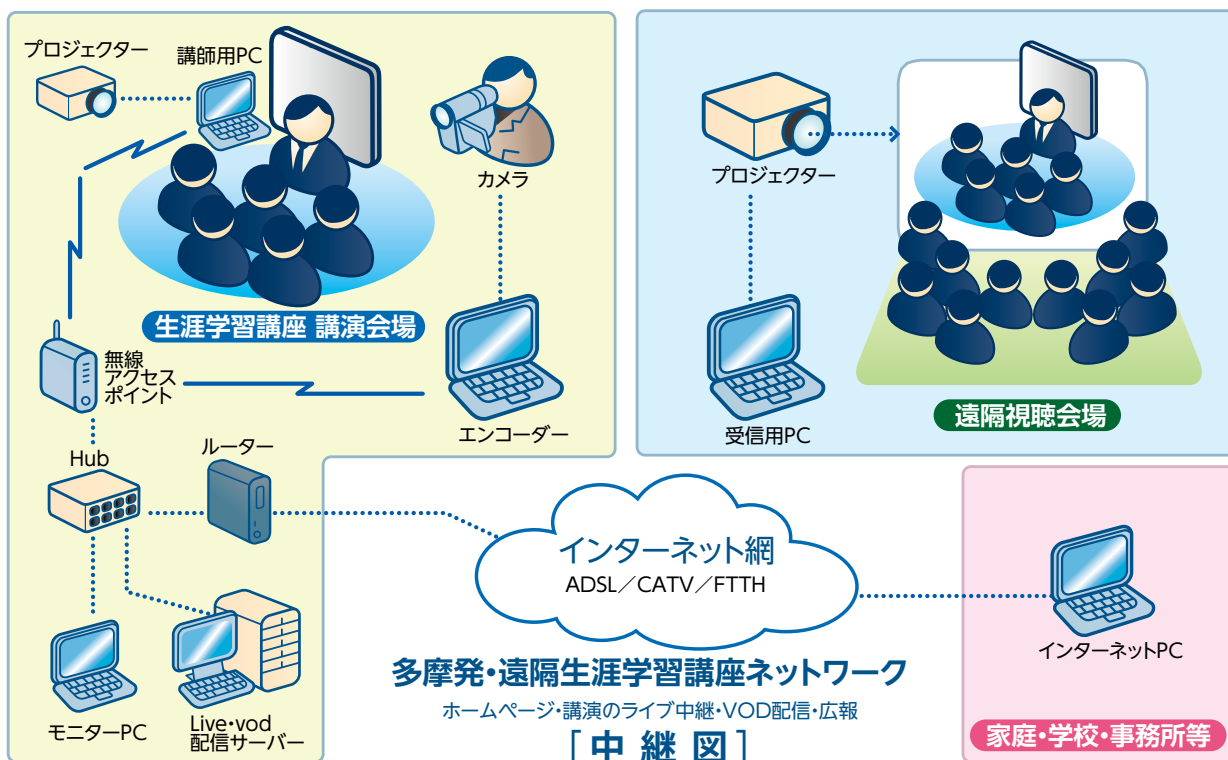
<http://zsgn.dp-21.net/tsgn/>（「多摩発・遠隔生涯学習講座」で検索）

■インターネット配信のしくみ

下記の「中継図」を参照

■これまでの講座開催状況

84ページ「開催状況」を参照



「多摩発・遠隔生涯学習講座」の開催状況

回数	開催年月日	講演テーマ	講師	職業・所属	会場	VOD 配信
130回	平成26年12月11日	結露発生メカニズム～快適な室内環境を求めて	徳村 穎子 氏	設備士、建築設備士、学校法人中央工学校講師	多摩交流センター	○
129回	平成26年11月13日	私の「学校支援」活動～中高生のためのキャリア教育	尾上 正嗣 氏	元シーメンス・ヒアリング・インストゥルメンツ（株）取締役	多摩交流センター	○
128回	平成26年10月9日	ビッグデータ・センサーネット時代のICT	甕 昭男 氏	YRP研究開発推進協会会長（株）中央コリドー代表取締役（一社）IIOT理事長	多摩交流センター	○
127回	平成26年9月11日	15周年を迎えた善行雑学大学	宮田 英夫 氏	善行雑学大学代表理事、元ミヤタ・バイシクル・オブ・アメリカ社社長	多摩交流センター	○
126回	平成26年8月14日	TamajinとTAMA市民塾と知縁コミュニティ	横田 至明 氏	TAMA市民塾塾長	多摩交流センター	○
125回	平成26年7月10日	武蔵野の雑木林を今に活かす	椎名 豊勝 氏	（一社）日本樹木医会副会長・東京都支部長、昭島市環境審議会会長、小平市緑化推進委員会委員長	多摩交流センター	○
124回	平成26年6月12日	生涯学習と望星学塾	橋本 敏明 氏	東海大学常務理事、望星学塾副塾長、東海大学体育学部教授	多摩交流センター	○
123回	平成26年5月8日	教育や学習の常識を考え直しませんか	高原 北雄 氏	全国生涯学習ネットワーク会長・元名古屋大学教授・航空宇宙技術研究所部長	多摩交流センター	○
122回	平成26年4月10日	土方歳三の愛人 花魁高尾太夫と土佐山内容堂	村瀬 彰吾 氏	日野市ふるさと歴史館初代館長	多摩交流センター	○
121回	平成26年3月13日	全国から注目される「いなぎICカレッジ」の現状	菅田 紀夫 氏	いなぎICカレッジ理事長	多摩交流センター	○
120回	平成26年2月13日	まちづくりは「学びネット」から～東大和の試み	堀江 幸夫 氏	東大和 市民ネットの会スタッフ	多摩交流センター	○
119回	平成26年1月9日	フィルムからデジタルへ～映画は変わるのか	島倉 繁夫 氏	メディア・プランナー、映像制作（演出）	多摩交流センター	○
118回	平成25年12月12日	正しい設計を考える	勝又 一郎 氏	日本経済大学大学院特任教授、その場考学研究所代表	多摩交流センター	○
117回	平成25年11月27日	はやぶさが切り拓いた未来～はやぶさ1号2号による小惑星探査～	國中 均 氏	JAXA教授・はやぶさ2のプロジェクトマネージャー	府中グリーンプラザ	○
116回	平成25年10月10日	命の種の物語	高橋 金一 氏	江戸東京野菜生産農家、小金井市農業委員会長職務代理、小金井市環境基本条例・環境基本計画策定委員	多摩交流センター	
115回	平成25年9月12日	自然への招待～もう一度「自然」について考えてみよう～	三島 次郎 氏	桜美林大学名誉教授、元筑波大学教授	多摩交流センター	○
114回	平成25年8月8日	宇宙機をつくる～宇宙の環境と宇宙機開発の常識	津野 克彦 氏	理化学研究所EUSOチーム/戎崎計算宇宙物理研究室テクニカルスタッフ	多摩交流センター	○
113回	平成25年7月11日	人を動かすコミュニケーションの構造	北原 義典 氏	（株）日立製作所中央研究所主管研究員・工学博士	多摩交流センター	○
112回	平成25年6月13日	化学の目で見る植物の運動	山村 庄亮 氏	慶応義塾大学名誉教授	多摩交流センター	○
111回	平成25年5月9日	趣味の開発～器楽合奏の経験から	村尾 麟一 氏	青山学院大学名誉教授	多摩交流センター	○
110回	平成25年4月11日	英語メディアで楽しく新語探しを	須永 紫乃生 氏	元駒沢女子大学教授	多摩交流センター	○
109回	平成25年3月14日	壊れたおもちゃを修理する～おもちゃ病院の活動	谷 正志 氏	日本おもちゃ病院協会元理事	多摩交流センター	
108回	平成25年2月14日	水問題の常識・非常識	河村 明 氏	首都大学東京教授	多摩交流センター	○
107回	平成25年1月10日	みんなはひとりのために、ひとはみんなのために 一エンジン技術者が考えた民主主義	柳 良二 氏	宇宙航空研究開発機構 航空プログラムグループ・環境適合エンジン技術チーム研究員	多摩交流センター	○
106回	平成24年12月13日	薬の正しい使い方～自分の健康は自分で守ろう	加藤 哲太 氏	東京薬科大学薬学部教授・薬学教育センター長	多摩交流センター	○

回数	開催年月日	講演テーマ	講師	職業・所属	会場	VOD 配信
105回	平成24年11月8日	現代家族と子ども	藤田 純子 氏	成蹊大学・津田塾大学・相模女子大学講師	多摩交流センター	○
104回	平成24年10月11日	複数危険の協力によって災害が発生した場合の保険者の補償責任	松島 恵 氏	明治学院大学名誉教授、日本保険学会名誉会員	多摩交流センター	○
103回	平成24年9月13日	在宅介護を行う方にとって欲しいこと	仙洞田 洋登 氏	(株)ウイズケアメディカル取締役・理学療法士・社会福祉士	多摩交流センター	○
102回	平成24年8月9日	新宿今昔	片山 文彦 氏	花園神社宮司	多摩交流センター	○
101回	平成24年7月12日	読書会の楽しみ	青木 笙子 氏	作家・TAMA市民塾元理事・講師	多摩交流センター	○
100回	平成24年6月14日	多摩発・遠隔生涯学習講座 100回記念 第一部 特別公演 祝賀能（高砂） 第二部 鼎談 知的機械による新しい産業革命	青木 一郎 氏 青木 健一 氏 松木 正勝 氏 柳 良二 氏 高原 北雄 氏	観世流能楽師 航空宇宙技術研究所元研究員ほか	小金井市民交流センター	○
99回	平成24年5月10日	老舗企業から学ぶ伝統と革新	横沢 利昌 氏	亜細亜大学名誉教授。ハリウッド大学院大学教授	多摩交流センター	○
98回	平成24年4月12日	流れを御する	本阿弥 眞治 氏	東京理科大学教授	多摩交流センター	○
97回	平成24年3月8日	グローバルな債務危機と日本の財政リスク	新飯田 宏 氏	横浜国立大学名誉教授	多摩交流センター	○
96回	平成24年2月9日	悠久の時の流れに立ちて	日江井 榮二郎 氏	東大名誉教授・国立天文台名誉教授・明星大学元学長	多摩交流センター	○
95回	平成24年1月12日	「ほのぼの筆の会」とパソコンのコラボレーション	金田 和友 氏	ダイヤネット代表 ほのぼの筆の会主宰	多摩交流センター	○
94回	平成23年12月8日	タイタニック号沈没100年と水中文化遺産保護条約	中田 達也 氏	東京海洋大学大学院 准教授	多摩交流センター	
93回	平成23年11月10日	ワイン文化の中に日本の文化を探る	根本 恵子 氏	東京ワインアカデミー主宰・事務局長	多摩交流センター	○
	平成23年11月6日	生涯学習フェスティバル2011ー生涯学習事業における協働ー	田中啓文氏ほか	基調講演・パネルディスカッション	小金井市民会館 萌黄ホール	
92回	平成23年10月13日	自動動画検索によるインターネット上のコミックなどの著作権対策	小舘 香椎子 氏	日本女子大学名誉教授・理学博士・元電波監理審議会委員	多摩交流センター	○
91回	平成23年9月8日	照葉樹林文化の成立と伝来	和田 康 氏	(株)安土代表取締役・世界の文化を学ぶ会会員	多摩交流センター	○
90回	平成23年8月11日	ゼロから始める英語多読	酒井 邦彦 氏	前電気通信大学准教授	多摩交流センター	○
89回	平成23年7月14日	ハエが手をする足をするー嫌われものを見直そうー	倉橋 弘 氏	国立感染症研究所 客員教授	多摩交流センター	○
88回	平成23年6月9日	はやぶさも含めた航空宇宙のトピックスと今後の展望	石川 隆司 氏	JAXA理事 研究開発本部長兼航空プログラム統括リーダー	多摩交流センター	○
87回	平成23年5月12日	電子書籍と電子出版ー紙の本はなくなる？ー	森 正樹 氏	(株)オーム元代表取締役専務・e-コミュニケーション・コンソーシアム事務局長	多摩交流センター	○
86回	平成23年4月14日	科学技術と文化	上野 晴樹 氏	国立情報学研究所名誉教授	多摩交流センター	○
85回	平成23年3月10日	アキシマクジラ化石発見50周年ー多摩川中流域は化石の宝庫ー	福嶋 徹 氏	むさしの化石塾代表	多摩交流センター	○
84回	平成23年2月10日	世界遺産石見銀山遺跡とその文化的景観その歴史と果たした役割	渡辺 辰郎 氏	島根県「遣島使」・関東石見銀山会会長	多摩交流センター	○
83回	平成23年1月13日	温暖化と地球変動	原田 朗 氏	元気象研究所所長/元防衛大学校地球科学教授	多摩交流センター	○
82回	平成22年12月9日	シニア層の社会貢献型“ちよつと稼ぎ”をサポートする	柴田 郁夫 氏	NPO東上まちづくりフォーラム理事長	多摩交流センター	○
81回	平成22年11月11日	漢字は日本語である・日本人と漢字文化	出口 宗和 氏	「読めそうで読めない間違いやすい漢字」の著者・東洋史研究家	多摩交流センター	○

回数	開催年月日	講演テーマ	講師	職業・所属	会場	VOD 配信
80回	平成22年10月14日	なぜ今、文語なのか	愛甲 次郎 氏	"文語の苑"代表幹事・元資源エネルギー庁次官・クエート元大使	多摩交流センター	○
79回	平成22年9月9日	地球温暖化防止に寄与する再生可能エネルギー	牛山 泉 氏	足利工業大学学長	多摩交流センター	○
78回	平成22年8月12日	明日の自動車・自動車社会	小林 敏雄 氏	東大名誉教授・東海大学元教授(財)日本自動車研究所所長	多摩交流センター	○
77回	平成22年7月8日	はてな?科学の目	谷田 好通 氏	東大名誉教授・東海大学元教授	多摩交流センター	○
76回	平成22年6月10日	ホタルと人間の共生	進藤 丕 氏	八王子生涯学習コーディネーター会事務局長	多摩交流センター	○
75回	平成22年5月13日	デフレ下の日本経済	新飯田 宏 氏	横浜国立大学名誉教授	多摩交流センター	○
74回	平成22年4月8日	近代技術史から忘れられたものー小さな水力利用の例と関連話題ー	川上 顕治郎 氏	多摩美術大学元教授・産業公庫学会顧問	多摩交流センター	○
73回	平成22年3月11日	最大の資源 水?	菅野 善則 氏	首都大学東京教授	多摩交流センター	○
72回	平成22年2月11日	イスラームの預言者ムハンマドの実像	鈴木 紘司 氏	NHK報道局アラビア語同時通訳者	多摩交流センター	○
71回	平成22年1月14日	百花繚乱 日本の神楽	三上 敏視 氏	多摩美術大学非常勤講師	多摩交流センター	○
70回	平成21年12月10日	「江戸小唄・端唄」演奏と鑑賞	小唄：春日よ 浜栄実/端唄： 芝糸/解説：加藤淳平氏	春日流小唄名、(財)春日会評議員/栄芝流端唄名/元ベルギー大使	多摩交流センター	○
69回	平成21年11月12日	生物学を教える楽しさ	貝沼 喜兵 氏	元東京農業大学助教授	多摩交流センター	○
68回	平成21年10月8日	タイタニック号の財宝と国際法	中田 達也 氏	文教大学国際学部非常勤講師	多摩交流センター	
67回	平成21年9月10日	振動の世界	鈴木 浩平 氏	首都大学東京名誉教授	多摩交流センター	○
66回	平成21年8月13日	第3番目のものづくり"立体プリンターの技術"	早野 誠治 氏	アスペクト代表取締役	多摩交流センター	○
65回	平成21年7月9日	宝石さまざま	砂川 一郎 氏	東北大学名誉教授	多摩交流センター	○
64回	平成21年6月11日	終わりのない旅ー学校づくり	鳥山 敏子 氏	東京賢治の学校	多摩交流センター	○
63回	平成21年5月14日	琉球から沖縄へー琉球国の外交関係と現代沖縄の課題ー	小澤 大二 氏	元外務省勤務・元JAIICA沖縄理事	多摩交流センター	○
62回	平成21年4月9日	地球温暖化をめぐる世界の動き	藤森 敬三 氏	日本電気環境エンジニアリング元社長・藤森環境経営研究所	多摩交流センター	○
61回	平成21年3月12日	新たな公共の担い手としてのNPO	田中 敬文 氏	東京学芸大学教育学部準教授・日本NPO学会副会長	多摩交流センター	○
60回	平成21年2月12日	民族の栄光と悲劇を秘めたエルサレム	シモン中村 青生 氏	イスラエル研究家	多摩交流センター	○
59回	平成21年1月8日	仲間と楽しむ郷土づくり	石橋 正治 氏	NPO法人境川緑のルネッサンス	多摩交流センター	○
58回	平成20年12月11日	明治維新と西洋音楽事始	高橋 育郎 氏	心のふるさとを歌う会リーダー	多摩交流センター	○
57回	平成20年11月13日	昭和という時代と歌	平原 俊彦 氏	元日本コロンビア洋楽部長・文芸部長・国際部長	多摩交流センター	
56回	平成20年10月9日	老年学の現状ー日本で未発達理由は何かー	山本 思外里 氏	全国民間カルチャー事業協議会顧問	多摩交流センター	○
55回	平成21年9月11日	日本人の死生観と精神分析	賀陽 濟 氏	精神科医・田無神社宮司・元東京大学客員教授	多摩交流センター	○
54回	平成20年8月14日	進む小金井のまちづくりー主婦から市議になって15年の戦いー	五十嵐 京子 氏	小金井市議会議員・全国生涯学習ネットワーク副会長	多摩交流センター	○

回数	開催年月日	講演テーマ	講師	職業・所属	会場	VOD 配信
53回	平成20年7月10日	生物化学的視点から健康食品を考える	森 陽 氏	東京薬科大学元学長・いなぎICカレッジ学長	多摩交流センター	○
52回	平成20年6月12日	諸形無常の多面体世界	横田 至明 氏	東京芸大講師・TAMA市民塾塾長	多摩交流センター	○
51回	平成20年5月8日	日本人の国家意識について	田中 和男 氏	元防衛大学教授	多摩交流センター	○
50回	平成20年4月10日	イメージ化で誰でも判る「数字と単位」	高原 北雄 氏	全国生涯学習ネットワーク会長・元名古屋大学教授・航空宇宙技術研究所部長	多摩交流センター	○
49回	平成20年3月13日	日本人の食と環境と	品川 明 氏	学習院女子大学教授	多摩交流センター	○
48回	平成20年2月14日	わが南極観測の50年	渡辺 興垂 氏	総合研究大学院大学名誉教授・元南極越冬隊長	多摩交流センター	○
47回	平成20年1月10日	パイロット不足で養成が急務の日本航空界	平澤 薫 氏	(株)ジャパンブロードカンパニー社長	多摩交流センター	○
46回	平成19年12月13日	途上国はどうすれば貧困から脱出できるかー中国の例からー	加藤 淳平 氏	中国外交学院客員教授・元パルキ-/パ/マ/ア/マン大使	多摩交流センター	○
45回	平成19年11月8日	現代「観天望気学」	古川 武彦 氏	気象コンパス代表・気象学会理事	多摩交流センター	○
44回	平成19年10月11日	しなやかな教育プログラムの推進	松尾澤 幸恵 氏	稲城市教育委員会教育長	多摩交流センター	○
43回	平成19年9月13日	演劇の楽しさ、俳優の楽しさを終えて	高垣 葵 氏	劇作/演出家・TAMA市民塾講師	多摩交流センター	○
42回	平成19年8月9日	米軍資料に見る中島飛行機むさしの製作所	牛田 守彦 氏	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会	多摩交流センター	○
41回	平成19年7月12日	歌は世につれ・よもやま話	玉田 元康 氏	ポニージャックス・リーダー	多摩交流センター	○
40回	平成19年6月14日	アインシュタインとハイゼルベルグー物理学と文学	和田 伸彦 氏	理学博士・元名古屋大学助教授	多摩交流センター	○
39回	平成19年5月10日	ようこそ日本舞踊へ	花柳 要三郎 氏	日本舞踊家	多摩交流センター	○
38回	平成19年4月12日	「新しい公共」時代のまちづくり	田中 雅文 氏	日本女子大学教授	多摩交流センター	○
37回	平成19年3月8日	田園都市論による新しい地域づくりの方向を探る	広瀬 盛行 氏	明星大学名誉教授	CCC21	○
36回	平成19年2月8日	芭蕉「奥の細道」コード～作品にこめられたすばらしい勘違い～	伊藤 洋 氏	元山梨大学学長	CCC21	○
35回	平成19年1月11日	飛行機をもっと知って3倍楽しむ	寺田 博之 氏	工学博士・元航空宇宙技術研究所部長	CCC21	○
34回	平成18年12月14日	能の魅力	青木 一郎 氏 青木 健一 氏	能楽師	CCC21	
33回	平成18年11月9日	有翼人物像の東西	勝木 言一郎 氏	文化財研究所・TAMA市民塾講師	CCC21	○
シンポ 1	平成18年10月28日	シンポジウム：未来社会を見つめた生涯学習とまちづくり	高原北雄氏・武者利光氏・石川良一氏・松尾澤幸恵氏・富永順次郎氏		稲城市立中央図書館	
32回	平成18年10月12日	大学デザインゼミー生活環境・江ノ電をデザインする	遠藤 武雄 氏	遠藤武雄デザイン研究室 前武蔵野美術大学教授	CCC21	○
31回	平成18年9月14日	ユビキタス情報通信時代のICT（IT）の動向	甕 昭男 氏	横須賀リサーチパーク推進協会会長	CCC21	○
30回	平成18年8月10日	放送メディアとその時代「戦争とラジオ」～玉音放送を巡るエピソード～	間宮 章 氏	八王子生涯学習コーディネータ会副会長、元NHKプロデューサー	CCC21	
29回	平成18年7月13日	地球に暮らす初めてのロングステイ	福永 佳津子 氏	海外生活カウンセラー・海外邦人安全協会理事・ロングステイ財団理事	CCC21	○

回数	開催年月日	講演テーマ	講師	職業・所属	会場	VOD 配信
28回	平成18年6月8日	高齢者の生涯学習ー 30年の経過を通してー	柳沢 継男 氏	北区民大学修了生の会代表	CCC21	○
27回	平成18年5月11日	長寿社会の余暇開発	瀬沼 克彰 氏	桜美林大学教授・全国生涯学習 ネットワーク副会長	CCC21	○
26回	平成18年4月13日	小説を描く	阿久 利徳 氏	画家、クラフト・アーティスト	CCC21	○
25回	平成18年3月9日	イスラーム世界の生活文化とその背景	武井 聖子 氏	オフィス・マイム代表・世界の生活 文化研究家	CCC21	○
24回	平成18年2月9日	コーヒーの話をお聞きになりませんか	木村 稔 氏	元コーヒー会社勤務・商社・メー カー監査	CCC21	○
23回	平成18年1月12日	わが国の航空宇宙技術の研究開発	坂田 公夫 氏	宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 理事	CCC21	○
22回	平成17年12月8日	ヒコー少年一代記	幸尾 治朗 氏	羽田航空宇宙科学館推進会議 副会長・航空宇宙技術研究所元 部長)	CCC21	○
21回	平成17年11月10日	第九と日本人	横田 庄一郎 氏	朝日新聞記者	CCC21	
20回	平成17年10月13日	パ・リイ紛争	平山 健太郎 氏	白鳳大学総合研究所客員教授・ 元NHK解説員	CCC21	○
19回	平成17年9月8日	ミズはどのように増えるのかー 貧毛類の分子生物学ー	蒲生 忍 氏	杏林大学教授	CCC21	○
18回	平成17年8月11日	色からみた日本人ー 白へのこだわりー	増田 美子 氏	学習院女子大学教授	CCC21	○
17回	平成17年7月14日	外来語の話	ジャン・ブルゲンス 氏	ルーテル学院大学助教授	CCC21	○
16回	平成17年6月2日	日本の近代土木を築いた人々	高橋 裕 氏	東京大学名誉教授	CCC21	○
15回	平成17年5月12日	メディア・コミュニケーション	石坂 悦男 氏	法政大学教授	CCC21	○
14回	平成17年4月14日	萬葉のロマンをたずねてー 家持の春愁三首ー	林 勉 氏	東京学芸大学名誉教授・TAMA 市民塾講師	CCC21	○
13回	平成17年3月8日	政治家の言葉を考える	内田 満 氏	早稲田大学名誉教授	CCC21	○
12回	平成17年2月8日	映画誕生110周年・映像技術おもしろ 発達史	島倉 繁夫 氏	メディアプランナー・元TAMA市民 塾理事	CCC21	○
11回	平成17年1月11日	インターネットは危険がいっぱいー どうしたら安全に使えるか	石田 晴久 氏	初代インターネット協会会長・東大名 誉教授	CCC21	○
10回	平成16年12月14日	カラス山巡礼	庄司 勲 氏	清見潟大学塾塾長	CCC21	○
9回	平成16年11月9日	江戸時代の機械技術・和時計とからくり を中心に	三輪 修三 氏	元青山学院大学副学長	CCC21	○
8回	平成16年10月12日	太陽は23歳	日江井 栄二郎 氏	東京大学名誉教授・元明星大学 学長	CCC21	○
7回	平成16年9月14日	時代劇映画と歌舞伎	上村 以和於 氏	演劇評論家	CCC21	
6回	平成16年8月10日	国際社会を理解するために	加藤 淳平 氏	常盤大学教授・元アメリカ・パナマ/ ボリビア大使	CCC21	○
5回	平成16年7月13日	参議院選挙後の政局	飯島 博 氏	NHK会友	CCC21	○
4回	平成16年6月8日	島は招く	本木 修次 氏	島博士	CCC21	○
3回	平成16年5月11日	行政とNPOの協働	三上 卓治 氏	神田雑学塾代表	CCC21	○
2回	平成16年4月13日	人間本田宗一郎を語る	西田 通弘 氏	(株)本田技術工業顧問・元副社長	多摩交流センター	○
1回	平成16年1月13日	脳波による痴呆症の早期発見と予防	武者 利光 氏	脳機能研究所所長・東工大名 誉教授	CCC21	



〈寄稿〉「多摩発・遠隔生涯学習講座」の役割

■ NPO 法人全国生涯学習ネットワーク 会長 高原北雄

(公財) 東京市町村自治調査会多摩交流センター開設 20 周年を、心からお慶び申し上げます。「NPO 法人全国生涯学習ネットワーク」は、全国の生涯学習を進めている団体が集まりネットワーク化し、平成 12 年 11 月に発足した組織で、多摩交流センターと共催してインターネットを介して全世界に発信する「多摩発・遠隔生涯学習講座」を実施しています。



「多摩発 遠隔生涯学習講座」100 回記念 鼎談

今や平均寿命は 80 歳を超え、過去にくらべて予測できないほど社会は変化してきました。小学校から大学までの 16 年間と比較して、5 倍もの多くの年数を過ごすことになりましたが、これからの現実社会は過去に比べて何倍も速く変化することが予測されます。

生涯を快適に過ごすためにはインターネットを活用した生涯学習(楽修)は極めて大切と考え、私達は考えながら行動し、次のとおり活動しています。

- ①生涯学習について、各団体の講師によるフォーラムの開催
- ②インターネット放送「多摩発・遠隔生涯学習講座」の実施

初期のインターネット講座は CCC21(中央コリドー高速通信実験プロジェクト推進協議会)のご支援で平成 16 年から始まりましたが、CCC21 の事業見直しにより支援継続が得られない事情が生じ、平成 19 年 4 月の第 38 回からは多摩交流センターと共催で「多摩発・遠隔生涯学習講座」として継続し、これまで多くの講座や講演会を実施してきました。

私達の講座は大学の講義と違い、講師は社会で活動しておられる多彩で様々な価値観をお持ちの方々に無料でご出講をお願いし実施しています。インターネット講座は平成 26 年 12 月で 130 回開催しています。

(多彩な顔ぶれの講師例)

- ▶大使他：加藤淳平氏(ベルギー)、愛甲次郎氏(クエート)、小澤大二氏(JAICA 元理事)
- ▶大学長：日江井栄次郎氏(明星大学)、森陽氏(東京薬科大学)、牛山泉氏(足利工業大学)、伊藤洋氏(山梨大学)、三輪修三氏(青山学院大学副学長)
- ▶IT 関係者：石田晴久氏(東大名誉教授)、小館香椎子氏(日本女子大学名誉教授)、齋昭男氏(YRP 研究開発推進協会会長)
- ▶経済学者：新飯田宏氏(横浜国大名誉教授)
- ▶神職と大学教育者：片山文彦氏(花園神社)、賀陽濟氏(田無神社)
- ▶JAXA 理事他：坂田公夫氏、石川隆司氏、寺田博之氏(元航空宇宙技術研究所) 他
- ▶その他：武者利光氏(脳機能研究所所長)、花柳要三郎氏(日本舞踊家)、春日とよ浜氏(江戸小唄・端唄) 他多数



平成 17 年の正月の講演は、特に記憶に残っています。インターネット協会初代会長の石田晴久博士による「インターネットは危険がいっぱい、どうしたら安全に使えるか」という名講演を受けました。今は故人となられましたが、現代社会を改めて考える基盤についての示唆に富んでおり、感慨深い講義でありました。

また、100 回目 (平成 24 年 6 月) には「100 回記念講演会」を、117 回目 (平成 25 年 11 月) には、「多摩東京移管 120 周年記念イベント」を開催し多くの方に参加をいただきました。

なお、10 周年記念誌「これからどうする市民の生涯学習」を平成 23 年 3 月 1 日に発行しています。



遠隔生涯学習講座 100 回記念特別講演祝賀能 (高砂)



全国生涯学習ネットワーク
10 周年記念誌

(第 100 回)

※鼎談 「知的機械による新しい産業革命」

航空宇宙技術研究所 (現 JAXA 本部) 松木正勝元副所長、柳良二特別研究員、高原北雄元部長

※祝賀能 「高砂」 観世流能楽師親子青木一郎氏・健一氏

※平成 24 年 6 月開催

※公募聴講者 (無料)

※定員 150 名

(第 117 回)

※特別講演 「はやぶさが切り拓いた未来」 國中均博士 (はやぶさ 2 のプロジェクト・マネージャー)

※映画 「はやぶさ遥かなる帰還」

※平成 25 年 11 月開催

※公募視聴者 (無料) 約 500 名



【多摩交流センターが果たした役割】

全国生涯学習ネットワークは今から10年前の平成16年に世界でも珍しいインターネットによる生涯学習を始めました。平成19年4月からは多摩交流センターの支援を受け、講義会場を第2木曜日の午後に確保・確定し利用させていただいています。

更に、運営費用の援助や特別講演の事務的担当など「多摩発・遠隔生涯学習講座」の充実を図る支援をいただき、心から感謝申し上げます。

【今後の抱負、展望など】

未来社会では、過去に比べても急速に地球規模で社会が激変して行くと考えています。技術はITとロボットの出現で従来の「知っているだけでは役に立たず」、「心を含め視聴覚、頭脳、筋肉を含めた全身で使い込める学習（我苦愁でなく楽修）」が極めて大切と考えています。

なお、私達日本人は明治中期の平均寿命42歳を今や2倍に伸ばし、現在、平均寿命82歳（3万日/72万時間）ですが、更に健康維持技術が向上して寿命を延ばしています。にもかかわらず、過去とほぼ同じ期間、同じような教育が行われていますがこれでよいのでしょうか。小学校から大学卒までは生涯年数の2割に相当する16年間（6,000日弱/14万時間強）がありながら、8%の5,500日（1.2万時間）分の授業時間では極めて短すぎます。

また、大学を卒業してからは気がつかないうちに企業と社会では人的交流は殆どない社会に変貌しています。私達は誰でもが無料で生涯学習ができる環境を社会に長年提供しており、これからも充実させていきます。現在、私達の実施しているインターネット中継の画質が粗い課題を改善するため、専門機関の助言や協力を得て画質向上の努力を始めています。

今や世界中の大学が、MOOCS（ムークス）（オンラインで公開された無料の講座を受講し、修了条件を満たすと修了証が取得できる教育サービス）という大学の講義の生放送や録画放送を世界に向けて放送し始めています。その影響でやっと日本の著名な大学もJMooCS（ジェイムクス）が動きだしていますが生涯学習の視点はありません。私達は10年前から大学でもこのような活動が大切と伝えてきましたが、残念ながら進展がみられません。こうした中で私達の生涯学習の活動は社会に大きく貢献してきたと自負しています。

今後ともよろしくご指導を心よりお願い申し上げます。



3. (公財)たましん地域文化財団

① (公財)たましん地域文化財団の概要

「(公財)たましん地域文化財団」は、多摩地域を中心とした歴史、美術に関する調査・研究並びに資料の収集を行い、その成果を広く公開し、かつまた普及、啓発活動を通じて地域の歴史、美術の振興に寄与することを目的として平成3年に設立された公益財団法人である。

【たましん地域文化財団】

■法人区分 公益財団法人

■主な事業

- ①たましん歴史・美術館、歴史資料室、たましん御岳美術館、たましんギャラリーの管理・運営
- ②多摩地域の歴史、美術に関する調査・研究、資料の収集、展示・公開及び情報の提供、研究会や講演会の開催
- ③多摩地域の歴史研究家、美術家などの個人や団体への支援、連携、交流及びその場の提供
- ④郷土誌『多摩のあゆみ』の発行など

■所在地 〒186-8686 東京都国立市中1-9-52

②多摩の歴史講座の紹介

この講座は、歴史と文化の宝庫である多摩地域を多くの方々に知っていただくため、平成9年度から「(公財)たましん地域文化財団」と「多摩交流センター」の共催事業として実施している。毎年、4回程度の座学と1回の現地見学会で構成する連続講座で、平成26年度までに18回開講している。

【多摩の歴史講座】

- 講座のテーマ 代官、寺院、説経節、国府、城跡、参詣、日記、地誌、鉄道、玉川上水など、多摩の歴史を知るための手がかりとなるテーマ。
- 開催場所 座学は「国分寺労政会館」など、見学会はテーマに沿った施設や地域を見学。
- その他 参加費は無料、定員は120名
- これまでの講座開催状況 次ページ『「多摩の歴史講座」の開催状況』を参照。

「多摩の歴史講座」の開催状況

年度	回数	定員	応募者数	テーマ	会場・見学先
平成9年度	第1回	70	データなし	「多摩の代官を語る」	多摩交流センター
平成10年度	第2回	70	269	「多摩の寺院を学ぶ」	多摩交流センター
平成11年度	第3回	70	74	「伝統芸能にふれる－説経節・人形芝居・写し絵－」	多摩交流センター
平成12年度	第4回	70	188	「武蔵国の古代を知る－国府・国分寺・東山道武蔵路－」	多摩交流センター
平成13年度	第5回	70	208	「多摩戦国時代の城を学ぶ」	多摩交流センター
平成14年度	第6回	70	201	「江戸近郊の山々を学ぶ－参詣と遊山－」	多摩交流センター
平成15年度	第7回	70	138	「日記にみる人々の暮らし－幕末維新の動乱を背景に－」	多摩交流センター
平成16年度	第8回	70	137	「近世地誌にみる多摩の地域像」	多摩交流センター
平成17年度	第9回	100	134	「産業考古学からみる多摩の鉄道」	国分寺商工会館
平成18年度	第10回	120	143	「玉川上水の歴史と自然を学ぶ」	国分寺労政会館 見学：玉川上水
平成19年度	第11回	120	116	「デジタル地図を使って多摩の歴史を探る」	国分寺労政会館 見学なし
平成20年度	第12回	120	149	「中世多摩の信仰と寺社」	国分寺労政会館 見学：京王百草園ほか
平成21年度	第13回	120 (129)	129	「今に伝わるむかしみち」	国分寺労政会館 見学：高幡不動～多摩市一之宮小野神社
平成22年度	第14回	120 (122)	122	「多摩川と暮らし」	国分寺労政会館 見学：羽村市郷土博物館ほか
平成23年度	第15回	120 (124)	125	「武蔵野・多摩の文学」	国分寺労政会館 見学：町田市民文学館
平成24年度	第16回	120	150	「八州廻りとアウトロー」	国分寺労政会館 見学：府中市郷土の森博物館
平成25年度	第17回	120 (67)	67	「移りゆく多摩の景観と暮らし」	国分寺労政会館 見学：集合住宅歴史館
平成26年度	第18回	120 (137)	137	「武蔵野台地と水」	国分寺労政会館 見学：三鷹市大沢の里水車経営農家ほか



〈寄稿〉多摩交流センター・たましん地域文化財団共催「多摩の歴史講座」の18年

■（公財）たましん地域文化財団 歴史資料室 坂田宏之

（公財）東京市町村自治調査会多摩交流センターが、開設以来、市民の文化活動や交流活動の支援を続けられ、20周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

（公財）たましん地域文化財団は、多摩信用金庫を母体に平成3年に設立された公益財団法人です。郷土誌『多摩のあゆみ』の刊行のほか、歴史資料室、たましん歴史・美術館、たましん御岳美術館、たましんギャラリーを運営しています。多摩交流センターとたましん地域文化財団で共催する「多摩の歴史講座」は平成9年度から毎年開講し、おかげさまで平成26年度に第18回を迎えました。多摩交流センタースタッフの皆様には、これまで受講者の募集や抽選、会場の確保に、大変ご尽力をいただきました。毎回のテーマは93ページの通りです。

テーマは、時代的に古代から近現代まで幅広く、代官、寺院、説経節、国府、国分寺、城跡、寺社、日記、地誌、鉄道、街道、玉川上水、文学など、多摩の歴史を知るための手がかりとなるものを選んでいきます。講師の先生方には最新の研究をわかりやすくご紹介くださるよう、お願いしてきました。ここまでの18回で開講数は延べ90回に及び、受講者定数にして1,740名もの方々にご聴講いただきました。平成18年度には10年目を迎え、それまでの各講座の資料をまとめた『地域の歴史を学ぶ―「多摩の歴史講座」10年の記録―』を平成20年3月に刊行しました。

スタートから第8回までは、多摩交流センターの会議室を利用して、70名の募集で開催していました。しかし人気の高い講座では募集倍率が1.5～2倍にもなりました。応募いただいた



国分寺労政会館での講座風景



皆様にはできる限り聴講していただきたい配慮から、第9回は国分寺商工会館へ、第10回からは国分寺労政会館に会場を移し、募集定員も120名として現在に至っています。

地域の歴史の理解には、現地見学や史料にできるだけ身近に接することが大切です。

第2回「多摩の寺院を学ぶ」では、高幡山金剛寺（高幡不動）のご好意で、不動明王胎内文書を川澄祐勝貫主の解説で特別に公開いただきました。

第5回「多摩戦国時代の城を学ぶ」のバス見学会では、加藤哲先生の案内で、青梅市の今井城、塩船観音寺、勝沼城、八王子市の滝山城、八王子城を一日かけて巡りました。

第10回「玉川上水の歴史と自然を学ぶ」では、小平市玉川上水を守る会の案内で、玉川上水や分水、水車跡の見学をしつつ、玉川上水駅から一橋学園駅まで歩きました。

第13回「今に伝わるむかしみち」では、伊能忠敬研究会の案内で、江戸時代後期の旧道を「伊能忠敬測量日記」の第7次測量調査（文化8年）の記録に沿って、高幡不動駅から多摩市一ノ宮の小野神社まで歩きました。どれも5kmほどの距離を歩き、「多摩戦国時代の城を学ぶ」ではかなり急な山道もありました。最後まで歩き通し見学される受講者の皆様の向学心には、私どもも大変やりがいを感じさせていただきました。

これまでの講座のうちいくつかは、それを核にたましん地域文化財団の書籍や『多摩のあゆみ』の特集となっています。第1回「多摩の代官を語る」はたましん地域文化財団の単行本、村上直・馬場憲一・米崎清実共著『多摩の代官』になりました。第4回「武蔵国の古代を知る一国府・国分寺・東山道武蔵路一」は『多摩のあゆみ』第103号特集「国府・国分寺・東山道」に、第11回「デジタル地図を使って多摩の歴史を探る」は第130号特集「デジタル地図の可能性」に、第16回「八州廻りとアウトロー」は第150号の同名の特集にまとまっています。『多摩の代官』は残念ながら品切れですが、『多摩のあゆみ』103号、130号、150号は、たましん地域文化財団で入手が可能です。



川澄祐勝貫主による不動明王胎内文書の解説



「多摩のあゆみ」103号、130号、150号

第11回「デジタル地図を使って多摩の歴史を探る」は第130号特集「デジタル地図の可能性」に、第16回「八州廻りとアウトロー」は第150号の同名の特集にまとまっています。『多摩の代官』は残念ながら品切れですが、『多摩のあゆみ』103号、130号、150号は、たましん地域文化財団で入手が可能です。

これからも私たちの暮らす「ふるさと多摩」の歴史を知り、より愛することができる講座を、多摩交流センターと手を携えて企画したいと考えております。多摩交流センターによる市民の活動支援や情報発信事業のますますのご発展を、心からお祈り申し上げます。

4. NPO法人東京・多摩リサイクル市民連邦

① NPO法人東京・多摩リサイクル市民連邦の概要

「NPO法人東京・多摩リサイクル市民連邦」は、「TAMA らいふ 21」のテーマプログラム「365万人リサイクル型都市の形成」の一つとして開催された「多摩リサイクルとことん討論会」を契機に設立された団体である。多摩交流センターと連携して、毎年、「TAMAとことん討論会」を共催している。

【東京・多摩リサイクル市民連邦】

■法人区分：特定非営利活動法人

■主な事業：

- ①循環型社会の創造と持続可能なライフスタイルの定着に向けた政策提言、調査研究、普及啓発、環境教育、交流、活動支援等
- ②多摩ニュータウン環境組合設置の「エコにこセンター」の運営

■所在地：〒206-0011 東京都多摩市関戸1-11-7 グリービル602

② TAMA とことん討論会のあゆみ

平成4年当時、急激な都市化とライフスタイルの変化などにより、ごみの急増や最終処分場の逼迫等「ごみ問題」に対して、市民や市町村、それに事業者が連携してリサイクルシステムの確立に向けて取り組む「365万人のリサイクル都市の形成」を図ることが多摩地域における主要で切実なテーマであった。

この新しいリサイクル社会の構築を目指した多摩地域の広域的なネットワークを形成するため、多摩地域のキーパーソン、熱心な活動を行っている方々などを対象として、参加者同士で多摩のリサイクルの現状と課題について時間を限らずに徹底した討論をする場を設けることになった。TAMA らいふ 21 協会が、平成4年7月に、「TAMA らいふ 21」のイベントとして「多摩リサイクルとことん討論会」を稲城市において開催したのがこの討論会の始まりである。このイベントを一過性で終わらせぬよう市民、企業、行政の三者が構成主体となり、広域的な交流、連携の活動を行なう「多摩リサイクル市民連邦」の設置が提案され、平成6年2月に行なわれた第2回の「TAMA とことん討論会」において「多摩リサイクル市民連邦」が発足した。

以後、「TAMA とことん討論会」は、東京・多摩リサイクル連邦（名称変更）と当調査会との共催により、これまで21回の討論会を開催している。

③ TAMA とことん討論会の紹介

ごみ問題は、さまざまな立場の人たちがそれぞれの場における役割分担と責任を明確にしつつ、お互いの活動を尊重し且つ連携していくことが重要で、「生活者市民」「企業市民」「リサイクル企業市民」「教育・研究者市民」「行政市民」の“五位一体（ごみいったい）”で行われるTAMA とことん討論会は、多摩の各市においてその地域の先進事例や開催時期にあったテーマを取り上げ、ごみ問題に関する情報と人材の蓄積を果たすとともに、多摩各地域の市民活動に結び付き、市民によるリサイクル運動の拡大・発展を図る役割を果たしている。

【TAMA とことん討論会】

- 討論会のテーマ：
多摩地域におけるリサイクル社会の構築を討論するテーマ
- 開催回数：毎年1回
- 開催地：多摩地域内
- その他：参加費は無料
- これまでの開催状況：
98 ページ「TAMA とことん討論会の開催状況」を参照



第 21 回 TAMA とことん討論会
ポスター



第 21 回 TAMA とことん討論会
報告書

TAMAとことん討論会の開催状況

回数	開催日、テーマ、開催場所等	講演等	分科会	参加人数
3	<p>【開催日】 平成7年10月28日 　　↓ 平成7年10月29日</p> <p>【テーマ】 リサイクルで減らそう！多摩のごみ</p> <p>【会場】 安田生命教育センター （調布市）</p>	<p>【リレー講演】10/28</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「燃やさない」ごみ処理とは ・容器包装リサイクル法について ・資源化率20%と調布方式 ・暮らしの中のごみ問題とリサイクル <p>【講演】10/29</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、広域的市民団体が必要なのか～東京・多摩リサイクル市民連邦の存在意義とは 	<p>① 容器リサイクル法を考える－市民・行政・事業者の役割とは</p> <p>② リサイクルと子どもたち－学校と地域の連携</p> <p>③ 燃やすから燃やさないへ－処理システムの今後を考える</p> <p>④ まわれ資源物・調布市に学ぶ</p> <p>⑤ ごみ減量とまちづくり・住民参加の拠点づくり</p> <p>⑥ 基礎ごみ講座－これだけは知って欲しいこと</p>	延べ500名
4	<p>【開催日】 平成8年10月19日 　　↓ 平成8年10月20日</p> <p>【テーマ】 これでいいの？あなたのごみ、多摩のごみ</p> <p>【会場】 CSK情報教育センター （多摩市）</p>	<p>【リレー講演】10/19</p> <ul style="list-style-type: none"> ・容器包装リサイクル法その後 ・再生品とライフスタイル ・家電品のリサイクルについて ・多摩市のごみの現状と課題 ・ダストボックス廃止とごみ減量 ・秋水園再生計画 <p>【講演】10/20</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイオキシン問題と今後の対策 <p>【パネルディスカッション】10/20</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これでいいの？ごみ収集 	<p>10/19</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ごみ減量と収集システム及び有料化を考える ② プラスチックからみた容器包装リサイクル法 ③ 燃やすから燃やさない ④ リサイクル品再考 ⑤ GOMIからみた街づくり ⑥ ストップ！過剰包装 ⑦ 大学生生活と地域&リサイクル ⑧ 子どもと大人の「ごみ」ワークショップ 	延べ480名
5	<p>【開催日】 平成9年10月25日 　　↓ 平成9年10月26日</p> <p>【テーマ】 市民が作る資源循環型社会をめざして</p> <p>【会場】 セミナープラザすずかけ台 （町田市）</p>	<p>【基調講演】10/25</p> <p>ヨーロッパすてきなごみ事情 日本のこれからの課題</p> <p>【リレートーク】10/25</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京ルールの主張 ・長井市における生ごみ循環システムの挑戦 ・資源循環を目指す町田市の取組み <p>【特別講演】10/26</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界自然遺産を守る、屋久島循環型社会の構想 ・環境を考えた製品づくりと市民生活 	<p>10/25</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ごみの基本講座（1） ごみの有料化が、なぜ叫ばれているのか ② ごみの基本講座（2） ごみ焼却とダイオキシン問題 ③ 古紙流通問題と再生紙利用の循環をどのように推進するか ④ 容器回収にデポジット法制定は有効か ⑤ 生ごみ堆肥化の循環システムをどのように構築するか ⑥ 循環型社会のための生活をとりまく条件づくりを考える 	延べ550名
6	<p>【開催日】 平成10年10月24日 　　↓ 平成10年10月25日</p> <p>【テーマ】 ごみゼロへのカウントダウン</p> <p>【会場】 日産自動車村山工場研修施設 （武蔵村山市）</p>	<p>【基調講演】10/24</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックと環境問題 <p>【リレートーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩地域のごみ事情 ・車のリサイクル 日産自動車の場合 ・市民版ごみゼロ計画 ・商店街のリサイクル <p>【特別講演】10/25</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックの分別回収 ・建築系廃棄物におけるダイオキシン問題とリサイクルの現状と問題点 	<p>10/24</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「燃やす」から「燃やさない」へ ② まず知ろう！プラスチックの全容 ③ 北多摩8市のごみゼロ計画 ④ 環境教育始めのいっぽ・学校のごみとリサイクル ⑤ 生ごみは資源 土にかえそうよ ⑥ リサイクル 地域から始めよう・広げよう ⑦ 資源物循環のしくみづくり ⑧ 基礎ごみ講座－買い物体験からごみの質を考える 	延べ530件

回数	開催日、テーマ、開催場所等	講演等	分科会	参加人数
7	<p>【開催日】 平成11年10月16日 ～ 平成11年10月17日</p> <p>【テーマ】 みなおそう！ライフスタイル ～府中発 ごみゼロ宣言～</p> <p>【会場】 東京農工大府中キャンパス 安田生命アカデミア (府中市)</p>	<p>【リレー講演】10/16</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 循環型社会に向け、暮らし方とものづくりをどう変えるか ・ 府中市のこれからのごみ減量・リサイクル戦略 ・ キャンパスからごみ減量を ～大学祭のごみダイエット報告～ <p>【パネルディスカッション】10/17</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 容器包装のリサイクル・多摩地域はどうする！？徹底討論 	<p>10/16</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 水は生命の源・水資源を見直そう ② 生ごみは資源 ③ 基礎ごみ講座－イベントのごみを事例として ④ プラスチックごみは燃やすのか燃やさないのか ⑤ 分別、どうする、どうなる川下だけのシステム ⑥ 地域で創る！地域が育つ！環境共育 	延べ520名
8	<p>【開催日】 平成12年10月21日 ～ 平成12年10月22日</p> <p>【テーマ】 耕そう 環境型コミュニティ ～TAMA発 環境の世紀に向けて～</p> <p>【会場】 東京都立大学 (八王子市)</p>	<p>【リレー講演】10/21</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生ごみと地域コミュニティ ・ 八王子市のリサイクルの現状について ・ 環境自治体をめざして <p>【講演】10/22 ごみ問題と市民活動 広域的環境NPOへの期待</p> <p>【パネルディスカッション】10/22 新世紀に向けたTAMAとことん討論会</p>	<p>10/21</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 持ち帰ろう 暮らしの知恵のWA ② 生ごみ・農・コミュニティ ③ 里山パラダイム考 ④ まちを元気にする方法 ⑤ 環境まなびあい ⑥ 資源リサイクル、ここが問題！ 	延べ450名
9	<p>【開催日】 平成13年9月22日 ～ 平成13年9月23日</p> <p>【テーマ】 ごみゼロ社会をめざす環境のまち日野 ～リサイクルだけでホントにいいの～</p> <p>【会場】 日野市民会館 日野市役所 (日野市)</p>	<p>【対談】9/22 ごみ改革1年を振り返って</p> <p>【発表】 環境共生住宅エコビレッジ日野</p> <p>【講演】 まちづくりと市民の役割</p> <p>【パネルディスカッション】9/23 これからの循環型社会を考える</p>	<p>9/22</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ごみ改革1年日野市の実践を通して ② 資源リサイクルここが問題～今回のテーマは故繊維～ ③ これからの市民と行政のパートナーシップ～日野市の市民参画を中心に～ ④ カラスはシロカクロか、それとも・・・ ⑤ 学校から発信するエコアクション ⑥ 生ごみと循環型農業の模索 ⑦ 水循環から見たごみ処理 	延べ550名
10	<p>【開催日】 平成14年10月19日 ～ 平成14年10月20日</p> <p>【テーマ】 振り返れば未来～今、市民のとるべき行動は？ 循環型社会へ－それぞれの責務</p> <p>【会場】 パルテノン多摩大ホール (多摩市)</p>	<p>【基調講演】10/19 循環型社会構築にむけた国としての取り組みについて</p> <p>【事例発表】10/19</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多摩市の和と環と輪のまちづくり ・ TAMAとことん討論会10回のあゆみと東京・多摩リサイクル連邦 <p>【大討論会】10/20 未来にむかって～今、私たちが実行することは</p>	<p>10/19</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ごみ収集有料化・レジ袋税・・・「経済的手法」のありかたを考えよう ② さあ、どうしよう プラスチックごみ－処理の現状とこれから ③ 緑資源のリサイクル・実践的手法アイデアトーク ④ 地域？学校？環境学習はどこへ？ ⑤ 生ごみから自然エネルギーへ（エコ発電） ⑥ 資源リサイクルここが問題 容器R法の問題点を徹底検証 ⑦ からだにいい水、世界の水、多摩の水 ⑧ 多摩市環境基本計画の実現に向けて 	延べ500名

回数	開催日、テーマ、開催場所等	講演等	分科会	参加人数
11	<p>【開催日】 平成16年2月7日</p> <p>【テーマ】 循環型社会づくりinTAMA 〈リサイクルからの転換〉</p> <p>【会場】 立川市中央公民館 (立川市)</p>	<p>【リレー講演】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最終処分場の現状とこれから ・ 日本のバイオマス利用が現在直面している課題 ・ 拡大生産者責任 (EPR)をめぐる動向 ・ 立川市のごみ・リサイクルの歩みと課題 	<p>① 最終処分場からごみ問題を考える</p> <p>② 多摩地域のバイオマスの身近な利用を考える</p> <p>③ リサイクルのコストを考えよう</p> <p>④ 立川市のごみ減量とリサイクルを考える</p> <p>⑤ 資源リサイクルここが問題 容り法の問題点を徹底検証</p> <p>⑥ 自転車のリサイクルを考える</p>	約250名
12	<p>【開催日】 平成16年11月13日 ～ 平成16年11月14日</p> <p>【テーマ】 ごみゼロをめざそう！ふるさと多摩</p> <p>【会場】 多摩ニュータウン環境組合</p> <p>〈プレイベント 12日 見学会・展示〉 (多摩市)</p>	<p>【基調講演】11/13 最終処分場から循環型社会を考える</p> <p>【パネル討論】11/14 多摩地域の家庭ごみ有料化を語る</p> <p>【見学会】11/12 多摩清掃工場</p>	<p>11/13</p> <p>① リサイクルの費用はどう負担する？</p> <p>② バイオマス in TAMA</p> <p>③ 処分場を起点に考えるごみ問題</p>	約200名
13	<p>【開催日】 平成18年1月29日</p> <p>【テーマ】 循環型社会をつくる多摩パワー</p> <p>【会場】 府中グリーンプラザ (全体会・分科会) 多摩交流センター (分科会) (府中市)</p>	<p>【事例発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 16年度多摩地域リサイクル率、可燃ごみ不燃ごみ排出量 ・ 水と生きるSUNTORY…社会と自然の共生を目指して ・ 多摩地域集団回収量トップの受け皿として ・ 陶磁器製廃食器のリサイクルを推進 	<p>① ごみ処理&リサイクルコスト</p> <p>② バイオマス・出口問題を追う</p> <p>③ 最終処分場からごみ問題を考える</p> <p>④ ごみを減らす「地域のしくみ」を考える</p> <p>⑤ よくわかる食器リサイクル</p> <p>⑥ 再生資源リレートーク</p>	約250名
14	<p>【開催日】 平成19年2月3日</p> <p>【テーマ】 循環型社会をつくる多摩パワー Part2</p> <p>【会場】 明星大学 日野校 26号館 (日野市)</p>	<p>【リレー講演】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トップグループ日野市、2周目の挑戦 ・ 持続的発展に向けての日野自動車の取り組み ・ 炭と微生物による環境浄化事例 ・ おちゃわんプロジェクトの未来像 	<p>① 身近なエネルギー資源としてのバイオマス</p> <p>② 最終処分場からごみ問題を考える</p> <p>③ ごみ革命6年、日野市のこれまでとこれから</p> <p>④ 食器リサイクルとおしゃれな暮らし</p> <p>⑤ 学生と地域の協働による大学構内でのゼロエミッション活動</p> <p>⑥ 古紙ー大量リサイクル時代の課題と展望</p>	約200名
15	<p>【開催日】 平成20年2月2日</p> <p>【テーマ】 これまでの15年・これからの15年 ～ 多摩地域のごみ・リサイクルこれからの道筋 ～</p> <p>【会場】 東京学芸大学 小金井キャンパス (小金井市)</p>	<p>【基調報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「資源リサイクルの検証」 ・ 「多摩地域のごみ実態調査から」 ・ 「環境リサイクル活動と市民のリテラシーの育成」 ・ 「TAMAが発信してきたもの」 <p>【とことんディスカッション】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「生ごみ」～多様な仕組みづくり ② 「プラスチック」～埋められない・回らない・燃えるだけ ③ 「ライフスタイル」～ライフスタイルのパラダイムシフト ④ 「とことんディスカッションのまとめ」 		約200名

回数	開催日、テーマ、開催場所等	講演等	参加人数
16	<p>【開催日】 平成21年2月28日</p> <p>【テーマ】 衣食住から考えよう！エコな暮らし ～持続可能な社会へのライフスタイルとは・・・～</p> <p>【会場】 国分寺市立Lホール (国分寺市)</p>	<p>【基調報告】 ごみから見た私たちのライフスタイル</p> <p>【とことんディスカッション】</p> <p>① プロローグ</p> <p>② 話題提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 衣から提言「衣料リサイクルの遷り変わり」 ・ 食からの提言「キッチンサイクルの取り組み」 ・ 住からの提言「住まいのサステナブルデザイン入門」 <p>③ パネルディスカッション</p>	約150名
17	<p>【開催日】 平成22年2月13日</p> <p>【テーマ】 食の3R ～ 日本の「食」からごみ問題を考えよう ～</p> <p>【会場】 調布市グリーンホール大ホール (調布市)</p>	<p>【鼎談】 日本の「食」からごみ問題を考えよう</p> <p>【とことんディスカッション】</p> <p>① 子どもたちからのメッセージ</p> <p>② リレートーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食育の取り組み ・ 食品メーカーの取り組み ・ 食べ物に困っている人々を支援する取り組み ・ 自らの食べ残しを持ち帰る取り組み ・ 食品廃棄物を堆肥化する事業者の取り組み ・ 生ごみ堆肥で野菜づくりをする市民団体の取り組み <p>③ パネルディスカッション</p>	約200名
18	<p>【開催日】</p> <p>【西東京市会場】 平成23年1月22日</p> <p>【東村山市会場】 平成23年1月30日</p> <p>【日野市会場】 平成23年2月27日</p> <p>【テーマ】 TAMAとことんリレー討論会 ～地域発 多摩のごみ～</p> <p>【会場】 西東京市 コール田無 東村山市 市民センター会議室 日野市役所本庁舎505会議室 (西東京市・東村山市・日野市)</p>	<p>1 西東京市会場</p> <p>【基調講演】 ごみを出さない暮らしのすすめ</p> <p>【話題提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成功したダイエットをリバウンドさせないために ・ 西東京市のごみ減量の成功のポイントと今後の対策 ・ ごみを出さない暮らし提案 <p>【パネルディスカッション】 今後一層のダイエットするための次の一手は？</p> <p>2 東村山市会場</p> <p>東村山のごみ問題と再生資源業界の現状</p> <p>【基調講演】 廃棄物中間処理施設のストックマネージメント</p> <p>【事例発表】 夢ハウスの活動</p> <p>【リレートーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資源物の持ち去りの実態と対策 ・ 古紙 ・ 古繊維 ・ リターナブルびん・缶。ペットボトル ・ カレット <p>【パネルディスカッション】 再生資源の現状</p> <p>3 日野市会場</p> <p>【事例発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 容器包装お返し大作戦について ・ 日野市民のレジ袋削減の取り組み ・ 販売店の取り組み ・ 容器包装と3R 事業者の取り組み <p>【パネルディスカッション】 容器包装3Rをめぐる各主体の役割</p>	<p>西東京市 約100件</p> <p>東村山市 約150件</p> <p>日野市 約80件</p>

回数	開催日、テーマ、開催場所等	講演等	参加人数
19	【開催日】 平成24年1月29日 【テーマ】 もっと減らせる TAMAのごみ ～古紙は紙の原料です!～ 【会場】 京王聖蹟桜ヶ丘 アウラホール (多摩市)	【リレー講演】 古紙リサイクルの基礎 多摩地域の古紙リサイクルの実態 【古紙回収の取り組み事例】 ・ 町内会をベースにした資源回収 ・ 集団回収の事例1 ・ 集団回収の事例2 ・ 再資源化事業者の立場から 【パネルディスカッション】 古紙リサイクルをすすめるためには・・・	約170名
20	【開催日】 平成25年1月27日 【テーマ】 もっと減らせる TAMAのごみ ～プラスチックの3R～ 【会場】 京王聖蹟桜ヶ丘 アウラホール (多摩市)	【基調講演】 プラスチックとプラスチックごみ 【報告】 多摩地域のプラスチックごみについて 【全体討論】 セッション1 わたしたちの暮らしとプラスチックごみ セッション2 容器包装リサイクル法改正にむけて	約160名
21	【開催日】 平成26年2月14日 【テーマ】 次世代に伝えたい「ごみ」のこと ～ごみ教育の現場から～ 【会場】 京王聖蹟桜ヶ丘 アウラホール (多摩市)	【報告】 多摩地域のごみ教育について～アンケート結果より 【事例発表】 ・ 生ごみリサイクルで菌ちゃん野菜づくり ・ 現場で学ぼう～中学生の職場体験 ・ 2013多摩中エコへの取り組み ・ 環境絵日記の取り組み ・ おもちゃのリユース ・ りさせんキッズクラブ・エコキッズサマーフェスタ 【講演】 環境教育とごみ問題 【パネルディスカッション】	約100名

【参考 1回・2回の状況】

回数	開催日、テーマ、開催場所等
1	「多摩リサイクルとことん討論会」 (TAMAらいふ21協会：実施) 「TAMAらいふ21」・イベント 【開催日】 平成4年7月11日～12日 【会場】 稲城市 よみうりランド会館 【テーマ】 「365万人リサイクル型都市の形成」に向けて － 泊り込み(合宿) 討論 － 平成5年4月 「TAMAらいふ21」 開幕 ～ 平成5年11月 「TAMAらいふ21」 閉幕
2	「TAMAとことん討論会」 (第2回TAMAとことん討論会実行委員会：実施) 【開催日】 平成6年2月26日～27日 【会場】 八王子市 大学セミナーハウス 【テーマ】 G・O・M・Iを語ろう 「多摩リサイクル市民連邦」のあり方を探る ※「多摩リサイクル市民連邦」発足



〈寄稿〉 TAMA とことん討論会と歩んだ 20 周年

■ NPO 法人東京・多摩リサイクル市民連邦 (平成 6 年 2 月発足)
代表理事 小石恵子

多摩交流センター開設 20 周年おめでとうございます。

【発足のきっかけ】

発足のきっかけは平成 4 年 7 月に TAMA らいふ 21 協会が主催した多摩リサイクルとことん討論会でした。2 日間の合宿型の討論会は、1 日目に全体会と分科会、2 日目に全体会というプログラムで、2 日目の全体会では 1 日目に実施された分科会からの報告を受けて、討論会のまとめを行うというものでした。20 以上あった分科会のほとんどから、①年に 1 度はごみ問題について関心のある人たちが集い情報交換・議論する場が必要、②多摩地域にごみ問題をテーマにした横断的な組織の構築が必要という 2 点が報告されました。こうした内容を受けて、生活者・行政・事業者・リサイクル事業者・教育研究者が市民という概念で連携し、ごみ問題解決に向かって循環型社会を構築していこうという構想が討論会の総括として、後に市民連邦の代表 (法人化後は代表理事) となる早稲田大学教授 (当時) の故寄本勝美先生から発表されました。五位一体 (ごみいったい) というこの考え方は、多摩地域の全市民、全行政の大きな課題であり、行き詰まっていた最終処分場問題への向き合い方を考えるきっかけになったと多くの人たちが口にしていました。



第 2 回 TAMA とことん討論会 市民連邦発足
あいさつをする(故)寄本勝美前代表理事

【市民連邦設立と TAMA とことん討論会】

「TAMA らいふ 21」の進行と並行して、市民連邦発足に向けて、何度も話し合いを重ね、平成 6 年 2 月に大学セミナーハウス (八王子市) で、実行委員会主催の第 2 回 TAMA とことん討論会を開催。市民連邦の発足にいたりました。多摩リサイクルとことん討論会で出たように、「横断的団体としての市民連邦が、毎年度 TAMA とことん討論会の実施を行う」という活動が誕生し、13 回からは多摩交流センターと共催で開催し、平成 25 年度で第 21 回となりました。

10 年間ほどは、開催地の抱えている課題を軸に、行政と市民団体との連携を意識したプログラムづくりを行っていました。しかし、今日のように協働という考え方が一般的ではなかったため、市民連邦と開催地の行政、あるいは開催地の市民団体と行政との連携がなかなか取れず、多摩交流センターの仲介や助言により、進めたこともありました。こうした経験の積み重ねから、行政との組み方、中間支援組織としての役割などを学ぶこととなり、現在運営業務を受託している多摩ニュータウン環境組合リサイクルセンター (愛称エコにこセンター) での活動へとつながってきました。

また、最近では、協働ということばを誰もが口にできるようになってきたことから、開催地の行政と市民団体の連携という図式にこだわらず、多摩地域全体、あるいは社会全体での関心事をテーマにしながら、討論会の組み立てを行っています。



【多摩地域から全国へ】

立川で開催した第11回TAMAとことん討論会の場で、市民連邦の新規活動として「陶磁器製食器リサイクル」への取組みを発表しました。「ちゃわんのかげらを埋め立てない」をスローガンに陶磁器製食器に着眼し、市民連邦の会員からの情報で美濃焼産地との連携ができ、新しい活動として、首都圏（多摩地域）で回収し、産地（岐阜県）で資源として活用するというプロジェクトをスタートさせました。

早々に受託しているエコにこセンターのイベントで試行したところ市民から高い評価を得たため、岐阜県の事業者団体とともに経済産業省の平成16年度コミュニティビジネスモデル事業として回収、見学会、作陶体験、展示会などを実施しました。事業終了後、関心を持った人たちや団体とともに市民連邦が中心となって、食器リサイクル全国ネットワークを立ち上げました。同時に、多摩ニュータウン環境組合からの要請で、受託事業の一つに「食器リサイクル事業」が加わり、多摩ニュータウンスタイルと名付けた行政とNPOの協働スタイルを作り出し、実践しながら、継続した情報発信を行っています。また、多摩地域内で活動している市民団体や行政でも回収を始めるところが増えてきました。多摩地域から全国に広がっている活動ともいえます。

しかし、食器リサイクルの活動を提案した当初は不燃残渣ゼロの自治体は少数であったものの、年を追うごとに増加しています。陶磁器製食器を埋め立てずにエコセメントの原料にしている自治体が増える中、埋め立てを減らそうというのではなく、リサイクルと同時にリユース活動、もったいないを意識したライフスタイルの提案が重要になりそうです。

【組織運営の難しさ】

市民連邦の所在地（事務局）は現在、町田市から小平市へ、そして多摩市に移り、今日に至っています。理由は、事務局長の自宅等を連絡先としていたため、現在も事務局長の仕事場の一角を借りている状態です。

ごみ問題への関心や強い思いを持った人たちが集まっているため、TAMAとことん討論会のような活動に対してはたいへん熱心に行動しますが、組織運営については不得手な人がほとんどです。そのため、会費と寄付金以外の収入を得ることが難しく、事務局スタッフとして仕事をする人を置くことが未だにできていません。現在は、「思い」の強い人たちによって運営を支え、組織も継続できていますが、発足後20年以上たった今日、高齢化を無視することはできません。

発足当時から会員として活躍してきた人の中にも、高齢になったことを理由に退会したり、お亡くなりになった方もいらっしゃいます。一方、若い人たちの入会はごく少数です。

ごみ問題は人間社会においては不可欠な社会問題であることから、市民連邦の果たす役割はまだまだ続くものと思えますが、組織としての運営はまさに岐路に立っていると言えるでしょう。

居候ではなく、市民連邦自身の事務所を持つことが組織継続には重要なポイントであり、そのためには自主事業の展開が必要になってきます。ここ数年が正念場です。



第21回TAMAとことん討論会 中学生の発表

5. その他、講演会等の取組み

多摩交流センターは、市民のネットワーク活動や生涯学習に対する支援として講演会等を実施している。その状況は次の「講演会等実施状況」のとおりである。

講演会等実施状況

実施年度	事業内容
平成 6 年度	○多摩地域の広域的課題に取り組むため、平成 7 年度開講予定の連続講座の準備事務を行った。
平成 7 年度	○連続講座「多摩川の生活と文学」：講師を三田鶴吉氏（立川市文化財保護審議会会長）ほか 4 名に依頼し、多摩地域に住む人々に多くの課題や題材を提供してきた多摩川をテーマに全 10 回で開催した。
平成 8 年度	○連続講座「ライフプランづくり」：講師を瀬沼克彰氏ほか 2 名に依頼し、当時「高齢化社会」から「超高齢化社会」に変貌しつつあるといわれていた、リタイア後の生活不安の解消と豊かなセカンドライフのための“ライフプランづくり”を一緒に考える講座を開催した。
平成 9 年度	○連続講座「ごみ基礎講座」：講師を寄本勝美氏（早稲田大学教授）ほか 7 名に依頼し、初級者を対象に「ごみ問題とは何か」を市民と一緒に考え、ごみ減量・リサイクルを通して、資源循環型社会の形成に役立てることを目的に視察も含めて実施した。
平成 10 年度	○連続講座「NPO 法基礎講座」：講師を山岡義典氏（日本 NPO センター事務局長）に依頼して開催した。平成 10 年 12 月の「NPO 法」施行を踏まえて、多摩地域の市民団体への PR を、東京都が主体となって行っていた。しかし、場所や開催回数の少なさもあり、各団体への周知をよりよく図るために実施した。
平成 12 年度	○自主講座「中高年の生きがい、健康づくり－定年後の生きがい大研究－」星旦二氏（医学博士、都立大学教授）を講師に依頼し 2 日間にわたって開催した。
平成 13 年度	○自主講座「新世紀の多摩を考える」：望月照彦氏（多摩大学教授）を講師に依頼し、東京都市町村職員研修所と共催でシンポジウムを開催した。
平成 14 年度	○自主講座「21 世紀のまちづくりと市民（志民）の役割」：望月照彦氏（多摩大学教授）を講師に依頼しシンポジウムを開催した。
平成 15 年度	○自主講演会「多摩の果たした役割と輩出した人物～江戸開府から幕末・近世にかけて～」：「TAMA らいふ 21」開催 10 周年記念行事として、作家の童門冬二氏を講師に依頼し、歴史講演会を開催した。

平成 16 年度	○多摩交流センター開設 10 周年記念事業「AnniversaryFes.2005」を平成 17 年 3 月 18 日から 20 日に開催した。
平成 17 年度	○自主講演会「語りは心の絵画 ～語り伝える大切さ～ 多摩地域に伝わる民話を通して語りの味わいと美しさを堪能してみませんか」：語り部・キャスター平野啓子氏を講師に依頼し講演会を開催（1 日 2 回）した。
平成 18 年度	○自主講演会「人生いかに学ぶか—長い人生を豊かに生きるために—作家の眼を通して大いに語る」：講師に多摩在住の作家、浅田次郎氏を依頼し講演会を開催した。
平成 21 年度	○多摩交流センター 15 周年記念「広域文化交流フェスタ たまのお」を平成 22 年 3 月 12 日から 13 日に開催した。
平成 24 年度	○共催講演会「多摩発・遠隔生涯学習講座」100 回記念として、平成 24 年 6 月 14 日に全国生涯学習ネットワークと共催し開催した。 ・特別公演 祝賀能「高砂」観世流能楽師 青木一郎氏、青木健一氏 ・トークセッション「知的機械による新しい産業革命」 松木正勝氏 航空宇宙技術研究所（現 JAXA）元副所長 柳 良二氏 航空宇宙技術研究所（現 JAXA）元ジェットエンジン技術研究センター長 高原北雄氏 航空宇宙技術研究所（現 JAXA）元熱流体力学部長・全国生涯学習ネットワーク会長
平成 25 年度	○多摩東京移管 120 周年記念イベント 「はやぶさが切り拓いた未来！」として特別講演と映画鑑賞を平成 25 年 11 月 27 日に全国生涯学習ネットワークと共催し開催した。 ・映画「はやぶさ 遙かなる帰還」 ・講演「はやぶさが切り拓いた未来！」 —はやぶさ 1 号 2 号による小惑星探査— ・講師 JAXA 教授 國中 均氏 航空宇宙技術研究所（現 JAXA） はやぶさ 2 のプロジェクト・マネージャー  はやぶさ講演ポスター
平成 26 年度	○多摩交流センター開設 20 周年記念事業として「体験型イベント」を平成 26 年 10 月～11 月に開催した（詳細については 20 ページを参照）。 ○また、当センター会議室登録団体の活動紹介の場の提供を平成 26 年 7 月から開始した（詳細については 24 ページを参照）。